

第三部理工系博士人材育成分科会（第26期・第5回/WG第9回）議事要旨

日時： 2025年12月24日（水） 12:00-13:05

場所： オンライン

出席者：伊藤由佳理、内田誠一、奥村幸子、尾崎由紀子、岸村顕広、
下田吉之、関根千津、高木周、堀利栄、宮崎恵子
沖大幹、関谷毅、常行真司

欠席者：北川尚美、三瓶政一、田村圭子
（敬称略）

（1）第4回議事要旨の確認（資料2）

- ・ 締切（2026/1/4）
- ・ 男女共同参画学協会連絡会へ第5回アンケート・加工済データベース借用申請（12/24送付、2026/1/15以降に結果受領予定）

（2）理工系博士人材育成に関するレポート骨子案について（資料3）

- ・ 奥村先生より、資料3（骨子案）について説明。骨子案の赤字部分が変更箇所。
- ・ 「記録」としてとりまとめる方針。現状や活躍の分析については、「第五回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」データ等の既存データを活用しつつ、学術会議ならではの視点を加える。
- ・ 第5章では、各分野別に現状や課題等を記載する。
- ・ 「博士を雇用できていない分野の問題点に関する産業界からの意見」など、今後追加検討すべき部分がある。
- ・ 分担の仮案を提示。これまでの意識調査や報告に比べて目新しい点、より踏み込んだ点をハイライトできると良い。
- ・ 3月前半に分科会を開催し、「記録」案の中間とりまとめを行う。

<議題（2）に関する質疑・意見交換>

- ・ 第4章「行政機関・教育機関」の教育機関とは？ → 小中高等（高校以下）等を想定。大学は「アカデミア」に分類。
- ・ 博士号取得者が教員免状を取りやすくなる制度（特別免許状等）の紹介。
- ・ 第3章「大学院課程における方策・施策」に、リーディング大学院等、これまでの取組の評価（現場でどう評価されたか等）も盛り込みたい。
- ・ 「博士を雇用できていない」という表現は誤解を生む可能性がある。「（必要が無く）雇用していない」ケースもあるはず。化学系調査ではD3修了直後はほぼ100%企業就職できている一方、40歳までポストク後の就職は難しくなる等、状況を一括りにすると理解が進まない。

- ・ 第2章タイトル「博士人材が有する能力」→「博士課程で育成される能力」（または博士人材に期待する能力）の方が適切ではないか。
- ・ 博士側（当初から企業志向／アカデミア志向だが断念して企業等）と、企業側（直接関係ある専門分野／基盤分野等）の双方に多様な事情がある。ミスマッチの整理を骨子案でどう扱うか。→ 学生が迅速に検索できる企業求人データベース整備が不十分。企業側の「多様な分野の人材が必要」という発信も課題。博士人材の募集・採用先に関する統計データ整備や、学協会による企業-大学(学生)間の橋渡しも検討課題。
- ・ 数学会では経団連と協力し、博士学生のポスター発表に企業が参加する異分野交流イベントがある。また企業と学生のマッチングを行う企業も複数存在する。
- ・ 第1章で「なぜ博士人材を増やす必要があるのか」という背景として、「研究力・技術力向上」と結び付けた方がよいのではないか。

(3) 公開シンポジウムについて

- ・ 公開シンポ開催の確認(学術会議講堂:5/1-22の平日午後で半日枠は予約可能; 申請書提出締切2/20)
- ・ 「記録」を出すこととセットで価値が増す内容(記録の解説に加え、記録に収まりきれない補足等)とする。録画してYouTube等で公開し、「記録」とともに残していく視点も重要。可能ならショート動画作成も検討。
- ・ シンポジウムの目的と対象者を明確化する必要がある。対象者として「市民」「社会」と言われがちだが、学術会議のイベントはアカデミア会員・連携会員が中心となることが多いため、現実的な対象設定とする。市民・学生を対象とする場合は、集客方法・担当も含めて決める。
- ・ 取りまとめ:関根先生。シンポジウムWG(案):伊藤先生、堀先生、三瓶先生、岸本先生、奥村先生。

<議題(3)に関する質疑・意見交換>

- ・ 広報はSNSや学協会へのアナウンス等を想定。SCJのHPからの告知も可能(ただし学生へのリーチは課題)。
- ・ ハイブリッド開催の確保を検討。1000名入れるオンライン会議アカウントを用いてハイブリッド会議とする案。
- ・ ハイブリッドの場合、YouTubeリアルタイム配信やSlido等の活用案。
- ・ 無料公開イベントであるため、高額な配信費用をかけず手作りで十分ではないか(例:100万円規模の費用は不要)。
- ・ テーマ設定が重要。いわゆる「キラキラ事例」だけでなく、失敗事例等も含めると良いのではないか。

- ・ 目的が不明確だと議論が定まりにくい。→ アカデミア側に分野横断の現状認識を持ってもらう趣旨もあり得る。→ 「博士人材の活かし方（民間も含む）」とするのはどうか。
- ・ 「研究力強化のためには博士人材が必要である」という前提で、現状分析に力点を置くか、改善策に力点を置くか等、シンポのストーリーを設計すべき。→ シンポの目的については、本日の議論をもとに今後 WG の先生方と具体的に詰めさせてもらう可能性もある。

(4) その他

- ・ 1、2月にシンポのWGを開催し、3月前半に分科会を開催して「記録」案の中間取りまとめと公開シンポの内容を決定する。
- ・ 骨子案ならびに「記録」担当・シンポWGメンバー案への意見を2026年1月4日までに奥村先生へ送付する。
- ・ WG（1月、2月各1回）および公開シンポの日程調整も1月4日締切で実施し、1月6日に担当者と合わせてアナウンスする。

以上

<配布資料>

- 資料1 第三部理工系博士人材育成分科会第5回資料
- 資料2 第三部理工系博士人材育成分科会第4回議事要旨
- 資料3 理工系博士人材育成に関するレポート骨子案